

# 令和7年度 兵庫県立湊川高等学校 学校評価

評価基準 5…とてもよくできた 4…よくできた 3…できた 2…あまりできなかった 1…できなかった

教育方針	(1) 綱領「誠実・協同・自由・自治」の精神を踏まえ、勤労を尊び、学ぶ意欲を育み、自己教育力の育成に努める。 (2) 生徒一人一人の個性を尊重し、きめ細かな教育的支援によって自他を大切にすることをしなやかにたくましく生きる力を育む。
教育目標	1 人間として不可欠な倫理観の育成と人権尊重の精神に基づく教育の充実を図る。 2 自ら学ぶ意欲を育て、基礎的・基本的な学力の定着を図る。 3 定時制高校としての特色を生かし、魅力ある地域に開かれた学校づくりを進める。

番号	分掌等	本年度の重点目標	具体的な取組	評価（教員）	評価（保護者） ※回答数7 (1年6名、3年1名)	総括（成果及び課題と改善方策）	学校関係者評価
1		各式典や学校行事等の企画・計画立案と円滑な運営に努める。	行事予定等の調整と円滑な実施を図るために、各部や学年との連携に努めるとともに、前年度の反省や事後アンケートを生かした企画・立案を行う。共有ファイルやPDF等を利用し会議の運営・記録を円滑に行う。	4.3	4.2	成果：各分掌、学年と情報交換を密にし、行事予定の調整、および円滑な実施に努めることができた。前年度の反省や事後アンケートを踏まえた企画・立案を行い、運営面の改善につなげることができた。共有ファイルやPDF等を利用し会議資料の共有や記録の管理が円滑に行われ、業務の効率化が図られた。課題と改善法：共有ファイル等の運用ルールを整理・周知し、誰もが活用しやすい環境づくりを進めることで、会議運営および記録管理のさらなる円滑化を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MVPファイルや3行日記、進路指導など丁寧に生徒にかかわっている。安心して任せられる学校だと思う。</li> <li>・働きながら学ぶ大切さがある。健全育成のため、中学校も手を携えてやっていきたい。</li> </ul>
2		防災避難訓練、震災講話等により、生徒・教員共に防災意識を高める。	防災避難訓練を実施し全校生に避難経路を確認させる。また、3学期の始業式に阪神・淡路大震災に関する行事として、震災講話を行い防災に関する意識を高める。危機管理マニュアルを見直し、より実用性を高める。	4.5	4.0	成果：地震・火災を想定した避難訓練を実施した。職員のみならず生徒も行った。担架での搬送実技など、具体的な役割や動きを明確にし対応力を高めた。防災講話では校長が阪神淡路大震災当時の自らの体験をもとに講話し、防災意識を高めることができた。危機管理マニュアルの部分改定を行った。課題：より実践的な避難訓練の方法の検討等。携帯電話を常時持つなど、職員の日ごろの防災意識の啓蒙をさらに進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の方の評価回収が難しいこともあり、生徒に評価を求めていると悪いと思われる。外国籍の生徒用に英語版など作成するのも良い。</li> <li>・定時制の生徒に、よりよい高校生活を送らせてあげたいと思う。湊川はしっかりとしたコンセプトを持って、生徒を思いながら対応されている。</li> </ul>
3	総務部	様々な授業や行事を通して、地域とともにある魅力ある学校づくりを行う。	「県立高校ふるさと共創プロジェクト」におけるクリーン作戦や地域交流学習会、地域の人材に学ぶ（総合的な探究の時間）、ボランティア活動等を通して地域との交流を図る。「県立高校魅力アップ推進事業」の各項目を充実させ魅力ある学校づくりができるような計画を立てる。	4.3	4.0	成果：クリーン作戦は年に2回実施し、生徒の積極的な参加で地域に貢献できた。地域交流学習会では中国切り絵を行い、地域の方の参加も得て、楽しい時間となった。総合的な探究の時間として地域人材の協力を得て、8つのテーマに分かれて学習することができた。今年度から校内カフェを地域人材を活用して展開し、生徒の居場所づくりを推進した。課題：「県立高校魅力アップ推進事業」の各項目を充実させ魅力ある学校づくりができるような計画についてさらなる検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やめてしまう生徒が多いのはとても残念で、先生方の努力が報われていないと思う。なぜ、保護者評価が少ないのかなと思う。</li> <li>・赤ちゃん先生の取組が良い。生徒はレポートにしっかり記入している。母が居て自分が産まれたとあらためて気づいただろう。</li> </ul>
4		ホームページの更新、学校案内の配布等を行い、広報・宣伝活動に努める。	学校案内の配布対象・配布時期について検討する。また、ホームページを適宜更新し、オープンハイスクールや学校見学时に魅力ある学校紹介ができるように検討する。	4.2	-	成果：HPのレイアウト改良を行い、トップページから在校生、卒業生、入学希望者に必要な情報に容易にアクセスできるようになった。更新を積極的に行い、給食献立はすべて掲載した。オープンハイの事後アンケートでは、本校の特色に対し好意的な回答が多かった。職員による中学校訪問を行い広報に努めた。課題：オープンハイなどの来校者には魅力を伝えられるが、来校しない中学生・保護者への広報活動の検討。HPへの情報の充実。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災講話で校長先生が阪神淡路大震災の経験を話されたのが良いと思う。地域の方と一緒に防災訓練をしたら良いと思う。</li> <li>・学校全体で生徒の自己肯定感を高め自信を付けさせようという姿勢がよくうかがえます。また、生徒の居場所づくりのために前向きな声かけをされたり校内カフェを取り入れる等、生徒が学校を安全で安心できる場所と思える取組をされていることもとても評価できます。</li> </ul>
5		行事ごとに写真撮影を行い、行事等の記録・保存・整理及び報告のために活用する。	各行事においての写真撮影等は、利用目的に応じ撮影方法等を工夫し、生徒・教員の個人情報について十分に配慮する。	4.3	3.5	成果：行事ごとに写真撮影の係を割り振り、事後は共有フォルダに整理して保存している。そのデータをもとに学校新聞やHPの充実を図るとともに、記録として有効に活用することができた。撮影に関しては、教師の携帯電話の利用ではなく、決められたカメラを使用するルールを徹底し、個人情報の保護に努めた。課題：撮影後の整理について課題があり、より明確な方法を提示する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今のポジティブな行動に着目する取組をさらに進めるのであれば、生徒さんに身につけてもらいたい価値・力量（例えば「安心・安全」「思いやり」「責任」）を特定すると良いと思う。それを共通言語とすることで、先生方の指導・支援に一貫性がもたらされることになる（「周りの人たちの安心に気遣った行動ができていたね」「思いやりが感じられるね」「最後まで責任を持ってやってくれたね」）。また、生徒さん達にもあらかじめそうした価値を提示・説明することで、どのような行動を期待されているのかが明確になり、生徒さん同士で評価もしやすくなると思う。</li> </ul>
6		基礎・基本の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数指導、習熟度別授業等を活用し、個に応じた学習指導を行う。</li> <li>・机間巡視を積極的に行い、生徒の理解度を確認しながら授業を行う。</li> </ul>	4.2	4.2	少人数クラスや習熟度クラスを活用し、生徒一人一人に対してきめ細やかな学習指導ができた。授業中の机間巡視（個別の指導）や声掛け等は、授業評価アンケートでも良い意見が多く見られた。今後、生徒指導部の方針でもある「ポジティブな介入」を心がけ、生徒が前向きに学習できる環境を整えていきたい。	
7	教務部	学習評価についての理解を深め、実践する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科においては評価規準を作成し、それに基づいた評価を行う。</li> <li>・観点別学習状況の評価について、教科会でより一層理解を深める。</li> </ul>	4.2	3.7	単一の方法で評価するのではなく、多面的な評価方法による観点別評価が定着してきている。各教科においても、それぞれの観点の評価についての検討や改善が見られる。今後、減点法ではなく、生徒のできているところを評価する、できている生徒のさらなる向上につながる意欲や努力を評価できるような制度づくりを検討していきたい。	
8		ユニバーサルデザインの視点に基づいた授業の改善を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・UDフォントやルビを使用し、誰もがわかりやすい教材を作成する。</li> <li>・タイムタイマーの使用や板書の工夫を行う。</li> </ul>	4.2	4.0	UDフォントやルビを使用したプリント作成や、プロジェクトで映し出す板書の作成は、教員全体に浸透してきた。また、タイムタイマーの使用もほとんどの授業で使用できている。今後、ユニバーサルデザインの研修等も行いながら、学校全体として取り組んでいきたい。	

9	生徒指導部	社会的規範意識と正しい判断力を持ち、自主的・自律的に行動できる生徒の育成に努める。	生徒との対話等を通じ、生徒理解に基づく指導を行う	4.5	4.0	生徒情報交換会をするなどして、生徒の情報を共有し、生徒理解に基づいて指導ができた。今後の課題としては、時間講師の先生との情報共有をいかにするかが大切になってくると考える。	
10			学校行事等の特別活動、HR活動、生徒会活動、部活動、ボランティア活動等を通して、自己肯定感や達成感を体験し、自立心と他者との協調性を育てる。	4.2	4.0	体育大会では、生徒会役員が審判や生徒会種目の用意をしてくれた。文化祭では、生徒会役員がテーマを考えたり、看板づくりをしてくれた。パンフレットの表紙絵は美術部の生徒が描いてくれたり、有志では外国籍の生徒が英語と日本語の歌を歌ってくれたりして盛り上げてくれた。	
11			誰もが安心・安全に学べる学校にするため、情報共有を密に行い、全教員で足並みを揃えた効果的な指導を行う	4.3	3.6	巡回指導、喫食指導などを当番制で全教員が協力してくれた。	
12			PBISの研修を行い、全職員が共通認識のもと、「叱責や制裁的指導によって問題行動を減らす」のではなく、「ポジティブな介入によってポジティブな行動を増やす」生徒指導を目指す。	4.3	3.8	MVPファイルを全校生対象に行った。PBISの研修が1月になってしまい、年度当初から共通認識を持って指導にあたることができなかった。	
13	進路指導部	キャリア教育の一環としての進路指導を行う。	・総合的な学習の時間、総合的な探求の時間や進路HRにおいて、「進路の手引き」や「高校生キャリアノート」を活用し、自己の将来について深く考える機会を設ける。 ・中学校時に不登校であった生徒や、中年・高齢の生徒など、様々なキャリア形成を抱える生徒たち一人ひとりに応じた進路指導を行う。	4.1	3.7	・総合的な学習の時間に、企業、大学、専門学校より講師を招き講演をいただいた後、生徒が振り返りシートを記入するなど、自己の将来に関して考える機会を設けることができた。 ・中学時の様子に関しては、学年と連携して情報収集をして対応する。	
14			卒業年度生の進路を実現させる。	4.2	3.3	・「進路希望調査」を実施し、卒業予定者の進路希望等を早期に把握できた。 ・就職希望者、進学希望者と面談し、内定・合格を目指し、細やかな支援を行うことができた。 ・学年とともに説明会等を行い、保護者の協力を得ながら進路指導を行うことができた。	
15			在校生の進路意識を啓発する。 (全学年対象)	・年度当初に「進路希望・就業実態調査」を全員対象に実施し、進路希望やアルバイト状況等について把握する。 ・自己の進路適性を把握し、進路意識の向上を促すために、2年生を対象に「分野別ガイダンス」を実施し、進学や就職など自己の進路適性について考える機会を設ける。 ・アルバイト求人への掲示やハローワークの学卒部門へ紹介を通して、未就労生徒への支援を行う。	4.2	4.0	・年度当初に「進路希望・就業実態調査」を全員対象に実施し、進路希望やアルバイト状況等について把握できた。 ・自己の進路適性を把握し、進路意識の向上を促すために、2年生を対象に「分野別ガイダンス」を実施し、進学や就職など自己の進路適性について考える機会を設けることができた。 ・アルバイト求人への掲示やハローワークの学卒部門へ紹介を通して、未就労生徒への支援については、今後関係機関と連携を密にし、生徒の要望に応えられるようにする。
16			「夏期教養講座」を実施する。	・3・4年生には、「就職対策講座」を実施し、就職試験に向けて一般教養・面接にむけての対策を行う。	4.2	2.7	・夏期教養講座については予定通り効果的に進めることができた
17			分掌業務の効率化を図る。	・求人票の管理システムの導入を行い、求人票でのデータ管理を行う。 ・TEAMSでの情報共有やPDF化を積極的に行い、書類管理においてペーパーレス化を進める。	3.9	2.7	・求人票の管理システムの導入を行い、求人票でのデータ管理を行うことができた。 ・TEAMSでの情報共有やPDF化、書類管理においてペーパーレス化においては今後検討の余地がある
18	保健部	検診受診率、検尿提出率の増加(80%)と受診勧告をした者の医療機関受診率の増加を目指し、生徒の健康意識・自己管理能力の向上を目指す。	欠席等で受診できていない生徒へ、検診の案内を配布し、受診率の向上を図る。歯科検診結果は全員に配付し、自身の歯と口の健康状態について理解を深める。	3.8	4.0	予定通りに実施し、概ね目標を達成した。来年度も続けたい。	
19			掲示物や保健だより等を通して、心身の健康に興味関心を持たせる。	手作りの掲示物を作成し、楽しみながら学ぶことができるように工夫する。 毎月の保健だよりには、その時々のリアルタイムな情報を載せるよう、日々の情報収集に努める。	4.3	4.0	感染症の流行時期や、季節によって手作りの掲示を行い、生徒達の関心を引くことができた。また、制作において、保健室に来る生徒に協力を促し、共に作り上げる達成感を味わってもらうことができた。
20			保健講話等により、自他の心身の健康やその状態に興味関心を持たせる。	今年度は、性教育の観点から兵庫県助産師会の方に保健講話の講師を依頼している。デートDVや性被害についてなど、生徒の身に現実起こりそうな事例を通して、パートナーや男女の関係について学ぶ機会とする。	4.0	3.8	講演後に生徒の感想をまとめたが、自分事として捉えている生徒が多く、大変良かった。
21			心理的問題を抱えた生徒の理解と、教員の行う支援の向上を目指す。	生徒が抱えている問題をカウンセラーや担任と共有し、コンサルテーションを通して専門家の意見をいただく。	4.1	3.3	予定通りに実施し、概ね目標を達成した。来年度も続けたい。

22	1年	生徒一人一人が新たな環境で居場所を持ち、互いを認め合いながら、前向きに学校生活を送れるように支援する。	規則正しい生活リズムを確立できるよう、日々声掛けを行うとともに、家庭との連携を大切に、情報共有を行う。	4.1	3.7	生徒の居場所づくりについては、前向きな言葉かけを大切に、生徒や保護者と良好な関係作りができたと考える。ただ、数多くの進路変更者を出したことは課題である。今後、生徒一人一人が、学校生活を送ることへの意味や魅力を感じられるよう、適切な声掛けを行っていきたい。
23		「褒める」ことを通じて、生徒の自己肯定感を育む。	生徒の成長するサインを見逃さず、日々の言葉かけや「MVPファイル」を通じて自己肯定感を育む。	4.4	4.0	「MVPファイル」や「三行日記」を通じて、褒めることによる自己肯定感の向上や生徒理解に向けた取り組みができた。特に「MVPファイル」に関して、学年外の教員の協力が多くあったことはよかった。今後に向けての課題は、これらのことを基盤としながら、生徒の進路意識を高め、学校生活をより充実させる態度を養う必要がある。
24	2年	互いに学び支え合う関係を通して、他者を思いやり、尊重する態度を育てるとともに、自尊感情を高める。	LHRや各授業等において、ディスカッションやグループ活動等を行い、自己と他者を理解するように声かけを行う。また、学校行事等を通じて、多様な人々や異なる文化の価値観を理解し、共生する態度を育成させる。	4.2	判断できない	年度当初、一部の生徒で人間関係でトラブルになる場面があった。LHR等の中で他者への思いやりや尊重する態度を育む取組として、いじめ防止プログラムを用いた授業や人権に関する授業などを行っていたが成果にはあまり結びつかなかった。クラスメイトと意見交換をする機会をより多く設ける必要がある。外国籍の生徒は本校2年目となり、昨年以上に本校の生徒とうまくコミュニケーションを図ることができ、良い雰囲気を作ることができている。
25		規範意識を高め、社会性の向上を図る。	基本的なルールやマナーを遵守する態度を育成するために、生徒一人一人に声かけやMVPファイル等を通じて、良かったことを常にほめて伸ばすことで、規範意識を向上させる。	4.2	判断できない	昨年度から行っているMVPファイルや三行日記などを通じて、生徒理解や自己肯定感を高める取り組みができた。MVPファイルをももらった生徒も照れながらも素直にうれしく感じてくれた。また生徒の良かったところを常に「褒める」という意識が教員にも高まった。一方で一部生徒にルール・マナーが守れず指導を受ける生徒もいたため、今後も教員の見守り・声掛けが必要である。
26		自ら情報を取捨選択し、冷静に読み取り、社会でたくましく生き抜く生徒を育む。	LHR、総探、学校行事等においてネットリテラシーに関する講座を開き、情報を取捨選択する力を身につけさせる。情報活用能力を活かし、社会を生き抜く力を身につけさせる。	3.9	判断できない	生徒指導部主催のネットトラブル講演会や始業式・終業式を通して、情報モラルや情報リテラシーが身についた。次年度は進路実現の年であるため、就職や進学に向けて情報活用能力を高めるための指導をしたいと考えている。
27		進路への意識の向上を図る。	進路指導部と協力・連携し、自己の適性を知り、進路を実現させる力を身につける。また、LHRや進路ガイダンス等を通して、進路意識を向上させる態度の育成を図る。	3.9	判断できない	進路指導部にはキャリアガイダンス、進路別ガイダンス、ふれあい育児体験等で大変お世話になった。LHR等では3年の先生から就職に向けての講義をして頂いた。生徒は次年度に向けて進路意識を大いに高めることができた。来年度は進路指導部とさらに連携を図り、生徒全員の進路実現を目指す。
28	3年	生徒が自らの進路を主体的に選択できるよう、自己理解を深めるとともに、進路に関する情報を提供し、適切な判断ができる力を育成する。	進路面談やキャリア教育を通じて、生徒一人ひとりの興味や適性を把握し、進路選択に向けた具体的なアドバイスを行う。進路指導部とともに進路ガイダンスや外部講師を招いた講演会を実施し、さまざまな職業や進学先についての情報を提供する。	4.3	判断できない	(成果) 生涯獲得賃金データ提示により、進路選択の重要性を認識させ、進路決定率が向上。外部講師やガイダンスは例年通り効果的で、生徒の満足度も高い。 (課題) アルバイトと正社員採用の違いについて、一部生徒の理解が不十分。就職後の定着性に不安がある。就職希望者のみ対象とするか、掘り起こしを継続するか検討が必要。 (改善一案) キャリア教育で長期的視点を強化(ライフプラン講座、卒業生事例紹介)。就職希望者の掘り起こしを継続し、進路選択の幅を広げる情報提供。
29		学んだ知識や技能を実社会で活かすための実践的な学習機会を提供し、社会で必要とされる能力を身につける。多様な人々との関わりを通じて、良好な人間関係を築く力やコミュニケーション能力を育成する。	実社会との接点を持つために、アルバイト体験の声かけや職場体験を実施し、実践的な学びを通じて社会で求められるスキルを身につける。さらに、HRや授業内でのグループディスカッション等を通じて、自己表現や他者理解を促進する。学校行事やクラブ活動を通じて、協力やコミュニケーションの重要性を体感させ、良好な人間関係を築く力を育成し、社会での適応力につなげる。	4.2	判断できない	(成果) 声掛けによって、社会経験(アルバイト)の第一歩を踏み出す生徒が出た。HRでのグループ活動により、自己表現や他者理解を促進。修学旅行参加者で成長を実感した。 (課題) 正社員として、社会で求められる自覚の理解が不十分な生徒がいる。コミュニケーション能力の育成に個人差が大きい。
30	4年	コミュニケーションをはかり、人権を尊重して思いを伝えられるようになる。	LHRや学校行事、人権尊重にとり組んだ湊川高校の先輩たちの活動を学び、自己の内面に向き合うとともに、協力し合いながら互いに思いを伝え合い、異なる立場や意見への配慮の重要性を認識して、人権を尊重する。	4.0	判断できない	成果としては、学年団が学年の生徒全員に分け隔てなく接することで、自然と生徒たちは、互いにコミュニケーションを取り、よりよい人間関係を構築していった。部活動や学校行事を通して、徐々に学年外の生徒ともコミュニケーションを図れるようになった。今後は、行事参加を通して、他校の生徒とのコミュニケーションも図れるようになれば良いと考える。
31		基礎・基本的な学力の定着を通じて、生涯にわたり、意欲的に学び続ける姿勢を培う。	授業の目標を明示し、目的意識をもって計画的に学習を行うようにするとともに、授業規律を守り、意欲的に学習に集中できる授業環境を整備する。	4.1	判断できない	成果は、学年団が教室の環境整備に努め、各教科担任も目標提示の下、しっかりした授業を実施したことで、生徒も授業に集中して前向きに取り組めるようになったことである。今後、この力の大切さを伝え続け、卒業後も持続させるようにしたい。
32		自らの将来を想像し、卒業及び卒業後の進路に関して自己実現できるよう、自ら考え行動する態度を養う。	進路希望をしっかり聞き取り、卒業後の目標を具体化させるとともに生徒の思いに寄り添いながら、必要な手段を提示して実現につなげる。	3.9	判断できない	成果は、生徒が「卒業」に強い思いを持ち始めた11月頃からLHRを活用して、学年団が生徒の進路希望を聞き、助言を与えながら、生徒が卒業後の自己実現に関して自ら考え行動できるようになったことである。課題は、生徒の思いを第一と考えたので、本校の進路指導日程と異なり、卒業までに進路決定ができなかったことである。

33	人権教育推進委員会	人権教育推進体制や校内外の人権関係との連携	人権教育推進委員会を中心に映画鑑賞会や人権講話、校内研修を実施し、生徒の人権意識を向上させる。	4.2	4.0	人権教育推進委員会を中心に映画鑑賞会を実施した。生徒は多様な生き方について理解を深めるとともに、家族の存在や自分で選んだ人生を歩むことの大切さに気づくことができた。また、人権通信を発行し、人権に関する問題への関心を高めることができた。
34			神戸地区県立学校人権教育研究協議会研究大会報告・兵庫県人権教育研究協議会中央大会・全国人権研究協議会研究大会などへに参加し、内容を教職員に共有し学校全体の人権感覚を高める。	4.1	4.0	神戸地区県立学校人権教育研究協議会研究大会や全国人権研究協議会研究大会など各種研究大会に参加し、校外研修も実施できた。校内研修では外国籍生徒の在留資格と進路指導を扱い、職員の人権意識向上に努めることができた。
35			日本語支援生徒など外国にルーツをもつ生徒に対して兵庫県在日外国人高校生交流会などに参加など促し、自分の大切さとともに他者の大切さを認めることができる人権感覚を育成する。	4.1	4.0	日本語支援生徒など外国にルーツをもつ生徒や多文化研究部部員に対して兵庫県在日外国人高校生交流会や地域交流学習会などへの参加を促し、自分の大切さとともに他者の大切さを認めることができるよう人権感覚の育成を図ることができた。上記3つの取り組みの今後の課題は、継続的に人権感覚や人権意識を高めていける環境づくりをしていくことである。
36	特別支援教育推進委員会	校内支援体制の充実と通級による指導	医療的サポート推進委員会を運営し、合理的配慮をすすめる。特別な支援を必要とする生徒に対して通級による指導を実施する。	4.4	3.0	特別な支援が必要な生徒の情報交換を重ね、必要な合理的配慮を行うことができた。特別支援教育の発想をUD授業などの形で全校の授業で取り組むことができた。通級指導では、「なりたい自分を目指す」ために個に応じた指導内容を展開し、主にコミュニケーション課題を中心に生徒の内面にアプローチできた。